

# まちの話題

## 地域を元気に

### 湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク

先月16日、「湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」が開催され、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える海田町、広島県の実現に向け、湯崎知事が海田町を訪問し、地域を元気にしようとして活動されている皆さんが日ごろの取り組みを披露・発表しました。

午前中、「海田郷土文化研究会」の皆さんが活動を紹介しました。知事は、現在、会員の皆さんが収集し、整理している海田町の昔の写真に興味深く眺められ、写真の説明を聞いて驚かれる場面も見られました。続いて、町民センターで「海田鼓童子」が練習風景を公開しました。和太鼓体験では、知事も一緒に太鼓をたたき、子どもたちとのふれあいに笑顔が溢れました。



海田郷土文化研究会の活動を紹介



和太鼓に挑戦



地域住民の取り組み発表を聞く湯崎知事



知事に質問する海田鼓童子の皆さん

### 防災・減災の強化

先月10日、海田小学校で消防出初式があり、消防関係者をはじめ多くの協力のものと多数のご観覧をしていただき、式を盛大に挙行することができました。海田町では、昨年1年間で合計4件の火災が発生しましたが、いずれも大事には至らず、鎮火させることができました。消防関係機関のこのような消火活動に対して、改めて敬意を表し、地域の皆さまと共に、地域防災力の向上にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

本町の消防体制は、広島市消防局安芸消防署と海田町消防団の2つからなっています。安芸消防署は常備消防で、平成19年から広島市に事務委託しており、体制の効率化や基盤強化など、本町にとってさまざまなメリットがあります。消防団は非常備の消防機関で、火災をはじめ、地震や風水害などの際には、地域住民の方々の生命と財産を災害から守り、被害をできるだけ少なくするよう活動する組織です。日ごろは、団員それぞれが各自の生活を送っていますが、ひとたび災害が発生すると、いち早く現場へ駆けつけ、消火活動や避難誘導などを行

います。本町では、現在約100名の消防団員の方に活躍していただいています。また、昨年から10名の女性団員で構成する女性部を創設し、AEDの使用方法や心肺蘇生法などの応急処置の指導を行うなど、幅広く啓発活動も行っています。

昨今は、どの自治体も防災に加え、減災についても相当に力を入れるようになってきています。国も次の「7つの備え」を提唱しています。これは、「1. 自助、共助の精神 2. 地域の危険を知る 3. 地震に強い家 4. 家具の固定 5. 日ごろからの備え 6. 家族での防災会議 7. 地域とのつながり」です。事前にこれらについての知識や情報を共有し、対処法を相談しておくといざというときに冷静に行動することができ

海田町においても地域ごとの特性を把握し、災害発生時の対策を想定しておくことが肝要であると思います。また、行政と町民の皆さまが協働により、地域の防災力を向上させることも当然に必要な不可欠です。今後も、災害に強いまちづくりのために、ご協力をお願いします。

# 町長コラム

海田町長  
西田祐三

町民サービス室 ☎823-9219  
☎823-7927

## 暮らしの中の消費者トラブル

### 「物干しざおに10万円！移動販売に注意」

(独立行政法人国民生活センター発行「見守り新鮮情報第229号」より転載)

**相談内容**  
物干しざおの移動販売のアイコンが聞こえたので、呼び止めた。「昔の値段で売っています」と言うので、常識的な価格だろうと思い、3本を注文した。その後、自宅用に合わせて長さに切った物干しざおを持ってきて、3本で約13万円を請求された。驚いて抗議したが一切つてしまったから返品できない」と言われた。交渉して約9万円に下がったので仕方なく払った。

**アドバイス**  
物干しざおの移動販売では、市価の数倍もの金額を請求し、威圧的な態度で支払いを強要するケースなどが見られます。フリーリング・オフが出来るケースがほとんどですが、領収証が渡されなかったり連絡先が架空だったりするため、業者との返金交渉は極めて困難です。せめて、車のナンバーだけでも控えるようにしましょう。

購入前には、「一本〇〇円ですね」「〇〇円以上の支払いはありませんね」などとはっきり価格を確認し、納得できない場合は、断りましょう。すこまれて恐怖を感じた場合は、近所の人や警察に助けを求めましょう。

不審に思ったら、早めに窓口にご相談してください。



午後からは、ひまわりプラザで、地域住民の皆さんによる挑戦の取り組みの発表がありました。発表者は、「織田幹雄スポーツ振興会」、「海田のヒマワリ屋さん」、海田中学校の生徒、海田西中学校の生徒、海田高校の生徒の皆さんでした。知事は、スポーツ振興、ヒマワリによってつながる地域の輪、学校生活などの取り組みを熱心に聞き入っておられ、発表者それぞれの海田町を愛する気持ちに感心しておられました。

130人の皆さんが見守る中発表が行われました

